



開講式にて

今回のプログラムは高齢者看護についての相互交流を主な目的にしているため、本学大学院看護学研究科の院生と教員を交えた両国間の事例に関する発表やディスカッションを行った。本学の院生のうち、王天瑤さん、賈玉婷さん、李珂さんの三人は、中国の看護師

活発なディスカッション展開

歓迎会を行った。本学国際交流センター長をはじめ、大学院清水看護学研究科長、荃津看護学科長、中平老年看護学領域長それぞれ歓迎の挨拶を述べた。歓迎の挨拶を受けて、河南大学の看護与健康学院の李瑞玲学部長より感謝の言葉を述べていただいた。学生たちも1人ずつ日本語の単語を挟みながら、英語や中国語で自己紹介をし、素敵な笑顔で受入れに対する感謝の言葉を述べた。最後に河南大学の李学部長は、訪問団を代表して感謝の意を表し、お土産の錦旗を贈呈して下さいました。

プログラム	
1日目	来日、オリエンテーション
2日目	開講式および歓迎会、キャンパスツアー
3日目	日中高齢患者の慢性疾患リスク評価についての検討会
4日目	医療教育機材開発メーカー「京都科学」訪問 高齢者ケア、看護技術のシミュレーターモデルや模擬教材などの見学
5日目	京都認知症総合センター、特別養護老人ホームヴィラ鳳凰、 ケアハウスやまぶき、デイサービスセンターヴィラ鳳凰などの訪問
6日目	日本文化体験
7日目	研修のまとめ、修了式、帰国

中国より研究者・学生ら招へい
日本の高齢者看護に関する研修

京都光華女子大学は、さくらサイエンスプランの支援を受け、今年2月12日～2月18日の日程で、中国河南省にある河南大学より10名の研究者・学生らを招へいし、日中間の高齢者看護についての共同研究の深化を目的とした相互交流プログラムを実施した。

予定通りに12日夕方に行は宿泊先に到着し、早速、一週間の研修のためのオリエンテーションを行った。そして翌日に開校式および



呉小玉
(京都光華女子大学
健康科学部教授)

京都光華女子大学の活動報告

科学技術
振興機構

『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第187回

II 特別シリーズ II



京都認知症総合センターを訪問



介護教育用教材を体験



日本文化を体験



「日本という国を訪問して、京都光華女子大学国際交流センターに招へいしていただき、皆様の温かいお迎えなど、色々なお心遣いを大変感謝します。日本滞在中に沢山のことを学びました。落ち着いてから研修報告書を書きますが、日本や京都光華女子大学での経験や友情を河南大学や中国国内で共有して、日中友好の思いを大事にしていきたいと思えます。」

今回、参加者が学んだことを生かして、今後、中国文化に適した高齢者看護が中国でも構築されたいと考えられる。

でありながら、日本で看護師免許を取得し、日本国内の病院で高齢者看護に携わっているということもあり、ディスカッションが活発に行われ、帰国後の研究方針についても討論した。

高齢者の特徴に合った教材開発会社の見学

4日目は京都市内の医療教育機材開発メーカー「株式会社京都科学」を訪問し、高齢者の援助システム、看護技術のシミュレーターモデルや模擬教材等の見学を行った。さまざまな体験を通して、日本における高齢者の特徴を考慮した教材や、学生が理解しやすい教材の開発について学び、参加者の中の教員は河南大学における教育のあり方のヒントを得て、勉強になったようだ。

病院や地域社会における高齢者への看護等研修

日頃から、本学学生の看護実習の受け入れ先施設として協力していただいている、京都認知症総合センターを訪問した。このセンターは、地域の認知症患者の多様なニーズに応じた様々な機能を果たす施設、すなわち「特別養護老人ホームウイラ風風」「短期入所サービス所」「ケアハウス」

プログラムを振り返って

2月18日に修了式で、JSTさくらサイエンスプランの修了証および記念バッジを参加者に授与してプログラムが無事に終わった。研修生にとっては、非常に濃く、充実した7日間となったようである。研修終了後に回答していただいた満足度アンケートでは、参加者全員が「非常に満足した」と答えていた。2月19日の朝、河南大学の李看護学部長よりメールを受信した。招へいされた10名全員が無事に河南省に帰国したとのこと、下記の通り記されていた。

「スやまぶき」「デイサービスセンターウイラ風風」「京都認知症総合センタークリニック」「グループホームウイラ風風」といった施設を併設しているため、認知症初期から看取りまでを一貫して看られるのが大きなメリットである。

認知症になっても住み慣れた地域で生活が継続できるよう、認知症の人や、家族に対して状況に応じた適切な事業が提供できることは大きな特徴で、中国からの参加者は、これらの施設への訪問や介護体験などを通して、日本の病院や地域社会における高齢患者への看護理念や方法について学ぶことが出来た。今後の教育や研究のあり方だけではなく、大学と地域の連携や貢献についても考えることができたようだ。また、せっかく日本の古都を訪問したので、京都の有名な茶菓子や着付等の日本文化体験もプログラムに入れ、世界遺産である平等院も見学しました。